

# わが国の医学雑誌論文における利害衝突情報

榊原真奈美<sup>1)</sup> 野添篤毅<sup>2)</sup>

1)愛知淑徳大学大学院博士前期課程 2)愛知淑徳大学文学研究科

**背景:** 1993年、ロンドンで開かれた医学雑誌編集者国際委員会 (International Committee of Medical Journal Editors: ICMJE) の会合では医学雑誌のピア・レビューや出版における利害衝突 (conflict of interest: COI) に関する声明が承認された。COI とは金銭的、またはその他の個人的な利益の考慮が研究者の研究遂行や結果の報告において職務上の判断に妥協を強いるかもしれない状況を指す。その結果、研究に関わる人々の間で利益と責任が衝突し、研究の信憑性、また論文の信頼性・正当性が失われる場合もあるため、学術活動の公平さに対する大きな脅威として認識されている。海外の主要学術雑誌は ICMJE の声明に基づいて論文内で COI の明記、すなわち、誰とどのような利害関係があり、研究を行ったかを明らかにすることを求めている。

**目的:** 日本の医学界において COI はどの程度意識されているのか、その扱いを明らかにするため、日本医学会分科会の学会誌 134 誌を対象に各雑誌の投稿規程に注目し、COI に関する項目の有無、その記述内容について調査する。

**方法:** 日本医学会分科会である 99 の学会が出版または、編集している学会誌 134 誌 (原著論文を含む雑誌のみ) を対象に、投稿規程内の COI に関連する項目について以下の項目に分類し、調査を行った。

- [A] COI の用語を用いて利害関係の明記を求める記述がある
- [B] COI の用語はないが、研究の資金源の明記を求める記述がある
- [C] 記述なし
- [Z] 不明

**結果:** 原著論文を掲載する全学会誌 134 誌 (和雑誌 75・洋雑誌 59) の投稿規程について COI に関する項目の分析を行った。その結果[A]の COI という用語を用いて利害関係の明記を求めた記述が存在した雑誌は 19 誌、[B]の COI という用語はないが、単に研究の資金源の明記を求めた記述が存在した雑誌は 13 誌、[C]の利害関係や研究の資金源の明記に関する記述がなかった雑誌は 98 誌、また[Z]の不明は 4 誌であった。少なくとも何らかの利害関係の明記を求めた雑誌は 32 誌 (全体の 23.9%) であった。このうち和雑誌が 4 誌、洋雑誌が 28 誌であり、洋雑誌のほうが COI に関する項目の割合が高い。またその項目の内容は様々であり、利害関係の明記を求めるだけでなく、利害関係に対する方針についても示している学会誌が 3 誌、残りの 29 誌は COI の明記を求めた文章のみであった。

**結論:** 本調査から日本の医学界において COI は、73.1%と半数以上の投稿規定に定められていないことが明らかになった。このことから日本の医学界において COI の開示の意識はまだ低いと言える。研究活動の公平さを保つために ICMJE の方針に従って、研究者は利害関係が開示することはもちろん、編集者にとっては研究者に対して利害関係の明示することが求められている。